

時事新報は一年三百六十五日一日も休刊無し

# 時事新報

第二千五百五號  
明治廿二年十二月十六日(丙寅)  
舊曆己丑十一月廿四日(丙寅)  
日山千六百四十五分  
日入千六百四十五分  
月入千六百四十五分  
日入千六百四十五分  
日入千六百四十五分  
日入千六百四十五分  
(西曆一千八百八十九年)

## 時事新報

### 國帽の脱

支那、朝鮮、安南、暹羅凡そ此數國の人々は世も蒙古人種と稱して其狀貌骨格等酷く日本人に肖たれども彼れ多くは武氣に鋭之又多くは文思に瀟して義俠凛然氣品高尚の趣は固より我が日本人に比す可しと思はれず即ち形を同うして魂を異にするものなれども如何せん狀貌の相類するを以て此數國の人々が其西洋服を着る者も直に之を判別するに苦み支那は東洋の大國なるを以て玉石混同、一概に之を支那人と稱する其支那人は西洋人が狡猾不潔不潔汚穢の人物とする所にして我が日本人の如きも既に支那人視せらるる時は身に固有する智徳に對して直に夫れだけの尊敬を受くるふとを得ず迷惑千萬なりと申す可し我輩つら／＼按ずるも米國又は支那人の渡來も多し其中十の八九までは下流の勞役者のみにして苦役を辭せず汚穢を嫌はず他の勞役者も壓倒するに及んで其不潔汚穢なる到る處も空氣を穢して衛生道の妨害を爲す等の實狀あるが故に一部の人々は之を嫌ふて之を輕蔑するのみならず米國國論の向ふ所を新に渡來するを禁するに至りたる次第にして事の是非は姑く擱き米國人の支那人を嫌惡する原因は誠明々白々たれども歐洲諸國の人々が矢張り支那人を忌み嫌ひ兒童走卒東洋人を見れば孰れも支那人の名を以て嫌惡輕蔑の情を示し我々日本人の如きも毎度その誤認する所を爲り我々は支那人に非ず云々と言譯して始めて其無禮を免かるゝとあるは是れ將た如何なる原因なるか蓋し威權同治の際、支那諸國の其時には英佛二國との交渉多く一方にて阿片を燒き又宣教師を虐殺すれば一方にて聯合軍を以て兵艦して北京城に入り彼の圓明園を燒き公私の寶物を分捕りし債金を取り土地を取り始めて續和に及ぶ等その騷亂一方からず然るに當時は今日と違ひ東西往來交通の便、頗る不自由なりしが故に輿地の僻報歐洲は遠くは幾月を費す程の次第にして遠方の事ゆゑ附説も多し當時歐洲の新聞紙は天下に時りく英佛を譽めて偏し支那人の殘忍なる又怯懦なるを毀り支那人は英佛の俘虜を捕へて殘酷にも尿水を飲まじめたり、又斯く／＼の擧げを行ひたりなど一時歐洲の人心を激して支那人は卑劣の人物なりと深く銘肝せしめたるものが今尙は一般人の感情に存して斯くまで嫌惡せらるるものにてあらんか或は他に其原因あるやも知る可らざれども兎も角、歐洲諸國にて支那人の卑劣なるは事實にして或る日本人中には大國支那人の人間違へらるるは我々の名譽に非ずやと云ふものもあれども國民の人情、實際決して然るとは試み吾々が歐洲諸國を旅行して汽車中他客と相對する時に我れを蔑視するが如き顔色を爲す者あれども偶然の事にて言語を交へ我れは日本人なりと云へば彼れ忽ち顔色を和らげ若し日本人にて候ひしは實は支那人と思ひ違ひて若だ失禮したり云

々として是れより日本の進歩速く移り搦手に相別るゝが如きは我輩の毎度實験したる所なり即ち西洋國人の一部は日本と支那と相對して既に其國を區別するとを知らず未だ其人を區別するとを知らず遂に玉石を混同するものなるが故に我々日本人たる者は一には此等の不愉快を避け一には我が國體を保ちて他と相區別するが爲め更に日本人特有の標的を撰み此標的を一見すれば遠近内外の人をして直に日本人たることを知らしむるの工夫ある可らず但し日本には日本服あり以て日本人の標的たらしむ可らざるに非ざれども今日の時勢人情、日本服を服して歐米の市街を擧行する能はざるのみか内國にては次第に洋服着用者の數を増しフロックコート燕尾服を以て夫れ／＼禮服と定めたる程の次第にして日本服は以て日本人の標的とするに足らざるが故に今洋服にも和服にも共に通用す可き彼の帽の制に一種特有の形を撰み之を日本の國帽として他と相區別するが如きは標的の最も明なるものなる可し此事たるを決して我輩の新聞に非ず何時の頃より始まりしか起原は確知せざれども彼の土耳其國にては富士山形の帽子の頂に數寸の房を垂れ下けてパシヤ以下悉く之を被るの例なるが故に歐洲の市を通行しても色の淺黒き大の男が此帽子を被るを見れば直に土耳其人たるを知りて他と相區別するを得べく即ち一種の國帽と稱するも可からん特に我が日本人は美術的思想に富むが故に獨立に工風を凝らしたれば面白き新形を案出して西洋人の眼を引くとも容易なるべく斯くて國帽定まりたる以上は官吏學校教員を始め官公の職務に當るものには必ず之を被らしめ特に歐米も出張するものには公私の別なく着用を命じ或は之を禮帽とするも或は常用帽とするも總べて其形を改めず之を羅紗とし之を帽心或は色合裝飾等の區別を以て之を用ふるの場合を異よししたれば國帽の形も人目も慣れ追々世界に知れ渡りて此國帽を一見すれば直に日本人たることを知るに至る可きなり之を要するも獨立國は成る可く其國特有の物を具へ之を認みて他と區別し之を思ふて愛國心を増すの工風を立つると肝要にして歐洲諸國孰れも之を勉めざるものなし此一點に至りては鎖末の事も忽ち可らず我輩の國帽説ある所以なり

### 自由黨再興事情一斑 (昨日の續)

第三大井渡邊二氏の高知行 去る十月二十五日を以て大井氏一派の人々と河野氏一派の人々とを全く相絶ちて互に反對を屹立したり實に彼の新聞紙に廣告したる東京俱樂部選會の申込書は兩派の中を他人よししたる離縁状と言はんより寧ろ國際上和親の障礙れて宜取状を發したるものと謂ふ可し(假令へ同日以後大同俱樂部より大同協和會に宛て、又大同協和會より大同俱樂部宛たる格式上の照會はありたるも)故に此時已に大井氏一派は板垣伯を擁して自由黨を再興するの機念を切迫せりとし東京俱樂部も臨時會を催はし改めて板

垣伯へ再興の義を申込み急々再興せば如何に披露すべき等の事共を打合せん爲め大井渡邊の二氏を委員に撰舉し兩氏は十一月七日東京を發し陸路神戸に着し同月九日の便船に乗る筈なりしに都合ありて十日に歸船し十一月十二日の兩日を以て伯との商談を了り十三日歸途に就たり兩氏が板垣伯と商談せし所は新聞紙上「自由黨の再興は好都合の運びなる由尤も委細は之を知るに由なし云々」等の高知新聞の外部時世に聞えざりしが事の際際なりと云ふを聞くも過日來世間の新聞紙に現はれたる大井渡邊兩氏署名して東京俱樂部宛てたる報告書に載せたる如く板垣伯の眼中大同俱樂部の舊自由黨員は只自由黨の再興を急なりとし之を贊成するものは加盟すべし否らざるものは勝手なるべし云々と謂へるが如き決然、斷然たるものにあらず鬼に角に十七日を以て舊友の懇親會を催し大同俱樂部に於ける舊自由黨員も大井氏等の一派をも一黨に集めて自由黨なる元の籍を納めんとすの意なりしは掩ふ可らざる事實なるが如し故に此大井渡邊兩氏と神戸にて落合ひ大同俱樂部の使命を帯びて同じく板垣伯を尋ねたる山際七司氏外二氏に對しても伯は此等の旨を敷衍して切迫ならざる答を爲したるよしなり

然るに前記の如く大井氏等は已に大同俱樂部の人々に對して行掛り上調和の望斷絶し唯一の行く可き道は板垣伯を擁して自由黨を再興し以て大同團結に相對せんとするのみあるのみあれば前記の如く伯の答を得て斯くは切迫の趣に吹聴したる次第にて此邊も所謂政治家の機轉術數なりしに相違なしとの評多し、機轉術數果して功ありしか、半は推測、半は此等の報道に據りて記したる新聞紙の記事此際大井氏等に都合宜しかりしもの多かりき竟に角に大井渡邊二氏の高知行は自由黨再興の事をして一層明白に一層廣く世に發表せしめたるものと云ふべし

第四大同俱樂部の驚愕 大同俱樂部の人々は已に大井氏と相絶ちたりと雖も竊かに心配なるは大井氏等の板垣伯を擁し得るや否やあり大井氏等克く板垣伯を擁して自由黨再興を披露せんか、大同團結の形勢今の儘に經過すべくもあらざり故に大井氏等一派の計畫に止まらんには自由黨を再興せりと唱道するも物どもすべしにあらざれども事、板垣伯を擁すに至らば容易ならざりし先づ山際七司外二氏を高知行に派するととなりしに尙ほ未だ容易に動可らずと思ひし板垣伯は政社非政社の軋轉をも仰止し時又時宜に依りて舊自由黨の再興をも試みん爲めに角に上坂可しとの報なりしかば何れも事の意外に驚きたり但し此儘に打聽せし可きにあらずれば同部の人々は集議を凝らし一方には板垣伯に上坂尙ほ早しと説きて起たしめ一方には各地方の同黨員に本部の方針を示し自由黨再興を關して黨中の人々の心を動かさしめす將又十七日の會出席をも爲さしめす舊友懇親會に至りて事寂しからしめんとの方策に決し板垣伯の爲めには同黨の諸々たる高橋基一、杉田定二の二氏を撰舉し大坂及び近畿の地方に以て八木原繁、前田下、稻垣示等諸氏を始め俄かに多數の黨員を派するふと云ふなりたり

第五高橋杉田二氏の高知行 斯くて高橋杉田の二氏は早速行李を纏へて高知に赴き板垣伯を請ひ自由黨再興の時尙ほ早きを諭じ同伯の上坂を擁せりといふ若し聞入れなくは我々は積年の關係あるものなれども涙を揮つて伯に反對の運動を試みざる可らず云々と説きたるにて板垣伯の之を聞くが爲めに上